国　　語

第１問　次の文章を読み，以下の問いに答えよ。

たとえば，足が速い子どものことを考えてみよう。小さな子どもたちが一斉にかけっこをしてみれば，足の速い子もいれば遅い子もいるものである。もしかしたらそれまでの遊びや生活環境が足の速さに影響するのかもしれないし，生まれながらの素質も関係しているのかもしれない。そして，足の遅い子に比べて速い子は走ることが楽しくなり，遊びの中でも走りまわる事を好むようになる。すると，ますます足の速い子と遅い子との差が開いていく。小学校に入学すれば，体育の授業や運動能力テストを通じて，さらに足の速さの差が認識されていく。本人も「自分は足が速い」と自覚するようになり，ますます走る機会を増やしていく。そして足の速い子は運動が得意だと思うようになり，サッカーや野球などのスポーツも得意になり，走りに関連するトレーニングをさらに重ねていく。もしかしたら，運動会のリレーの選手や陸上の選抜チームに抜擢（ばってき）されることがあるかもしれない。すると，もともと足の速かった子と遅かった子の「足の速さ」に差がさらに開いていくことになる。

この例は「足の速さ」というひとつの観点を見たに過ぎない。［　A　］。すると，私たちが取り組む課題の多さ，環境の多様さ，そこで起きる組み合わせの複雑さをイメージすることができる。

子どもがもつ個性はその個性を伸ばすような環境を呼び寄せ，さらにその環境がその子の個性を開花させていく。このようなサイクルが個性を際立たせていく。私たちそれぞれがもつ個性は人生の歩みそのものだとも言えるのである。

ところで，性格は何歳で完成するのだろうか？［　B　］。その一方で，「何歳までの環境がとにかく大切で，何歳で性格は完成する」という考え方にも根強いものがある。特に「三つ子の魂百まで」ということわざがあるように，「３歳で性格は決まるのでは」という意見はよく耳にする。

しかし，さまざまな調査によると，幼児期から児童期を通じて気質は環境との間にダイナミックに相互作用を起こし，気質自体も変化していくと考えられる。

そのようなことを踏まえると，［　ア　］のではないだろうか。

さらに調べてみるとほかにも，「10歳で決まる」「12歳で決まる」「20歳くらい」など，さまざまな意見がある。では，実際にはどうなのだろうか。ある年齢で性格が決まってしまい，もうそこから変わらないということが本当にあるのだろうか。

この問題を考える前に，「性格が完成する」とはどういうことなのかを押さえておきたい。「性格は何歳までに完成するのですか」という疑問は，学生からもよく出されるもののひとつである。しかし，［　C　］。

まずは，「性格」である。類型的な性格の捉え方を想定するか特性的な捉え方を想定するかで，「完成する」の意味がずいぶん変わってくる。たとえば類型的に性格を捉えていると，「外向的なタイプ」と「内向的なタイプ」との間にはずいぶん大きな開きがあり，ある人がいったん「外向的なタイプ」と判断されれば，なかなかそこから「内向的なタイプ」には移行しないものだと想像してしまう。すると，性格のことを考える際に「いったん決まった性格はなかなか変わらないだろう」という［　イ　］。

ここでは性格を類型ではなく，特性で捉えてみる。また，性格全体ではなく個別の性格特性を問題とする。つまり，ある性格特性の数直線を考え，その数直線上のどこかに個人が位置すると考える。そしてそのような数直線が複数あることを想定する。これは身長や体重を例にして考えればわかりやすいのではないだろうか。身長と体重は，関連しながらもそれぞれが別の次元の数値，つまり別の数直線を意味する。そして，生まれてから身長は次第に大きく，体重も重くなっていき，どこかの年齢であまり変化しなくなっていく。多くの場合，中学生や高校生時代，思春期の第二次性徴が終了すると身長の伸びは止まり，身体の大きさに規定される体重の基本的な枠組みが決まっていく。身長や体重について「この年齢で完成する」ということを考えた場合，それは第二次性徴に伴う身体の変化が一段落つく，10代半ばから後半くらいだと言えるのではないだろうか。

しかし，身長と体重は同じではない。身長はいったん伸びが止まると，特定の病気を除けば高齢になるまでそこから急激に縮んでいくことは考えにくい。その一方で体重に関しては，もちろんあまり変化しない人もいるだろうが，

［　ウ　］上下動を繰り返していく。

そして多くの場合，年齢とともに増加する傾向がある。同じように「このあたりの年齢で完成するだろう」と考えられる複数の身体の要素を考えても，身長のようにその後あまり変動しない側面もあれば，体重のように大きく変動する可能性がある側面もある。

性格について言えば，身長のようにある時点で変動が完全に止まってしまうことは考えにくい。体重のように，さまざまな影響を受けながら少しずつ変動しているイメージで捉えるとよいのではないだろうか。そしてこのように考えると，「性格が何歳で完成するのか」という時の「完成」の意味とは，「あまり変動しなくなる」ことだと言える。

性格が何歳で完成するかを確かめるためには，年齢に伴って性格特性の変動を見ていき，あまり変動しなくなる年齢がいつなのかを探ればよいということになる。

さらに話は少しややこしくなるのだが，この「変動」にもいくつかの種類がある。この問題を考えるときに重要な観点となるので，詳しく見ておきたい。ひとつは，個人内の変動を捉えようとするものである。この中にはさらにふたつの考え方が含まれている。まず，個人のある性格特性の得点が時間を経て変動するかどうか，という考え方である。これはたとえば，外向性の得点（数値）が時間とともに変動していくということを指す。また個人がもつ複数の性格特性の得点パターンが変わっていくかどうか，という考え方もある。たとえば以前は外向性が他の得点よりも高かったが，現在は外向性の得点が下がり，協調性の得点が［　エ　］になっている，といったような複数の性格特性のバランスの変動である。

もうひとつの考え方は，集団の変動を考えることである。そして，集団の変動の捉え方についても，さらにふたつに分けることができる。まず，平均レベルの変動に注目することである。子どもたちが成長していくにつれて，身長が伸びていく。これは平均値が次第に上昇することによって表される。もちろん，個々の子どもに注目すれば，各自の身長の伸び方にはばらつきがある。しかし全体を見れば，徐々に身長が伸びていく様子は，集団における平均値の伸びによって表さ

れる。次に，集団の中の順位の変動という考え方である。身長が伸び盛りの時期で，個々人の身長の伸びに大きなばらつきがあるのならば，以前は上位の身長だった子どもが数年後には順位を下げ，下位に位置していた子どもの身長が一気に伸びて上位になるという現象が見られるはずである。そして，身長の成長が一段落つき，もうあまり身長が伸びなくなれば，順位の入れ替わりはほとんど起きなくなる。つまり，一定の時間をおいて集団を見たときに，ある性格特性の得点について順位の変動が起きなくなれば，その特性は「完成した」といえる。つまり，［　D　］。

アメリカの心理学者ブレント・ロバーツらは，順位の変動に注目して「何歳で性格が完成するのか」という問題にひとつの回答を示したことで知られる。

この研究の優れたアイデアは，すでに行われている研究を統合していくことで，年齢段階ごとの性格の変動を検討しようと試みた点にある。心理学では，同じ調査対象者に数カ月や数年の時間を空けて再度調査をする研究が数多くある。［　オ　］そういった再調査をしている研究を収集し，最初で得られたデータと再調査で得られたデータの関連について統計値を集めていく。そして，メタ分析という研究手法で，先行研究で報告された統計的な値を統合していく。ひとりの研究者にできる調査には限界がある。しかし，これまでに行われた研究をメタ分析の手法で統合すれば，非常に広い範囲における性格の変動について，全体的な研究知見を得ることができるというわけである。

（小塩真司『性格とは何か　より良く生きるための心理学』中公新書，2020年。ただし，出題のために一部変更した。）

問１　空欄 A ～ D にあてはまるものとして最も適切なものを以下から選べ。なお，異なる空欄には異なるものが入る。

A 1 ，B 2 ，C 3 ，D 4

① 子どもの気質は環境と組み合わさり，成長とともにさらに複雑な経路をたどっていく

② 性格は，血液型と相関関係を持ち，Ａ型ならば几帳面になりやすい

③ 疑問を解消しようとする探求心など人の個性は遺伝子によってほぼ決定されている

④ ある程度「変化が起きる時期が終わった」と考えることができる

⑤ 人生の中にある多様な領域それぞれについて，これと同じようなことが起きていると想像してみよう

⑥ この疑問にはいくつかの前提があり，その共通理解がないとお互いの理解はなかなか進まない

⑦ 科学的なトレーニングを導入すればするほど，「足の速さ」は向上する

⑧ ある性格特性の流動性が際立ち，その人の性格が「完成」されるのである

問２　空欄 ア にあてはまる最も適切なものを，以下から一つ選べ。

5

① 「三つ子の魂百まで」という考え方には妥当性がある

② 「三つ子の魂百まで」という考え方には一貫性がない

③ 「気質と環境は表裏一体である」と考えられる

④ 「気質と環境は表裏一体である」とは考えにくい

⑤ 「３歳で性格が完成する」とは考えにくい

⑥ 「３歳で性格が完成する」と考えられる

問３　空欄 イ にあてはまる最も適切なものを，以下から一つ選べ。 6

① 確信を抱きがちになる
② 確信を抱くことができない
③ 先入観を抱きがちになる
④ 先入観を抱くことができない
⑤ 想定を抱きがちになる
⑥ 想定を抱くことができない

問４　空欄 ウ にあてはまる最も適切なものを，以下から一つ選べ。 7

① 見映えに影響されながら
② 流行に影響されながら
③ 生活スタイルに影響されながら
④ 食文化に影響されながら
⑤ 商品の魅力に影響されながら

問５　空欄 エ にあてはまる最も適切な語を，以下から一つ選べ。 8

① 顕著　② 広範　③ 曖昧　④ 希薄　⑤ 堅調

問６　空欄 オ にあてはまるものとして最も適切なものを，以下から一つ選べ。 9

① そこで　② ところが　③ それから
④ なぜなら　⑤ そのかわり　⑥ ところで

問７　本文の内容としてより適切なものを，以下から二つ選べ。

10 ， 11 （順不同）

① 性格は類型的に捉えることで，性格が変わったことがわかる。

② 性格は類型的に捉えても，性格が変わったのかわからない。

③ 性格を特性的に捉えることで，変動の時期を捉えることができる。

④ 性格を特性的に捉えても，変動の時期を捉えることはできない。

⑤ 性格特性の４つの変動を見ることで，性格の完成時期を捉えることができる。

⑥ 性格特性の４つの変動を見ても，性格の完成時期を捉えることはできない。

⑦ ひとりの研究者の調査こそ重要であり，メタ分析をする必要はない。

⑧ ひとりの研究者の調査には限界があり，たとえメタ分析をしても無効である。

第２問　次の文章を読んで，以下の問いに答えよ。

新型コロナ感染症の拡大は，いずれ収束する。いまだ第３波の感染拡大が深刻化している2021年初頭の日本では，この収束が半年後なのか，１年後なのか，それとも２年後になるのかを見通すのは難しい。それでもなお，３年後，４年後の私たちが，まだこの感染症拡大の渦中にいることは，おそらくないのである。時代は，すでにポストコロナ時代に入っている。

たとえばコロナ危機で，大学のオンライン化は劇的に進んだ。この変化は確実にポストコロナ時代も続く。オンライン化でコロナ危機を乗り切れば，大学は元に戻るのかと言えば，そうではない。むしろ，コロナ危機のなかで大学に起きたことは，それ以前から起きていたグローバル化の圧縮された姿である。したがって，ポストコロナ時代に大学が向かうのは，確実にそうしたより長期の歴史的な流れの延長線上にある方向となる。

だから私たちはこの問題を，半年，１年の単位ではなく，もっとはるかに長い時間のなかで捉え返す必要がある。何よりも，世界史的視座から捉えるなら，グローバル化とパンデミックは長い時間のなかで表裏をなして人類の営みを変化させてきた。

まず，今回の危機の先行例は，1918年のスペイン風邪，すなわちインフルエンザ禍である。それが，第一次世界大戦で大量の兵士がグローバルに移動していたことと不可分だったのは周知の通りだ。兵舎が感染の温床となり，米国の大戦参戦で大量の兵士がヨーロッパの戦地に移動したことで感染は世界に広がり，悲惨な大戦を終わらせる要因の一つともなった。

より長い歴史のなかで，グローバル化との関係が際立つのは，16世紀の天然痘禍と14世紀のペスト禍である。16世紀の南北アメリカ大陸では，天然痘が凄（すさ）まじい勢いで広がり，先住民に大量死をもたらしたが，これはスペインの大航海者たちが持ち込んだ病原菌で，大航海時代と不可分の関係があった。米大陸の先住民社会には天然痘に対する免疫がまったくなかったため，コルテスたちが持ち込んだ天然痘が多くの部族を全滅させる。大航海時代は，パンデミックの時代でもあったのだ。

つまり，人類史のなかで繰り返されてきた感染症パンデミック発生の背景には，常に様々な時代のグローバリゼーションが存在した。ペストや天然痘，コレラの病原菌を運んだのは，直接的にはノミやネズミであるとしても，［　A　］。だから感染予防は，古代から現在に至るまで，一貫して「移動の制限」が基本となる。グローバル化とパンデミックは，歴史を通じて同じコインの表裏(ア)である。

そして現在，私たちが渦中にいるパンデミックを生んだのは，1980年代以降の新自由主義的グローバリゼーションにより地球社会が急激なスピードで広域統合されていったことである。この危機によって，世界の名だたる航空会社が壊滅的な打撃を受けていることは，この関係をはっきり象徴している。「感染予防」と「経済再生」の二律背反(イ)という日々語られている関係の根底にあるのは，グローバル化とパンデミックの表裏の関係である。

重要なことは，こうしたグローバル化とパンデミックの長い関係史のなかでの大学の位置である。12，13世紀のヨーロッパに大学が誕生した最も重要な条件は，汎ヨーロッパ的に都市から都市へと渡り歩くことのできる移動のネットワークだった。このネットワーク上を，商人，職人，聖職者，芸能者，そして知識人が旅していた。どこかの都市に，大変学識のある人物がいることがわかると，多くの学徒が何か月も旅してその都市に集まり学びの舎を形成した。やがてそうした都市の旅人たちは，地元の世俗権力の干渉を退けるため，学問の自由についての勅許をローマ教皇や神聖ローマ帝国皇帝から得て，教師と学生の協同組合，すなわち大学を形成していった。つまり，大学誕生の根底にあったのは，脱領域的な移動の自由であり，これこそが大学の自由の根幹(ウ)をなすものだった。

だからやがて，この汎ヨーロッパ的な移動の自由が制限されたり，必要ではなくなったりしていくと，この第一世代の大学は衰退に向かう。そうした移動の自由が失われるのは16世紀で，直接の要因は宗教戦争，それに続く領邦国家の形成だった。宗教戦争の結果，カトリックの支配域とプロテスタントの支配域の間に高い壁が生まれた。また領邦国家は，それまでのヨーロッパ中にあったネットワークを国家の壁で分断した。

［　B　］，旅人たちの共同体だった大学に，ペスト禍による移動制限という以上に深いダメージを与えたのは，ペスト禍の一つの結果として生じていった

技術革新だった。ペスト禍でヨーロッパの人口が激減し，あらゆる分野で労働力が不足する状況が生じていく。当然ながら，この状況は労賃を上昇させる(エ)。農業から手工業まで，雇用主は労働者により高い労賃を払わざるを得なくなり，この経営の窮状から逃れるべく，生産工程の合理化，機械化に取り組み始めたのである。このインセンティブは労働集約的な産業ほど強く，そこでは技術的イノベーションが起こる条件が整っていた。そして，中世の本作りはまさしくそうした世界だったから，そこで手工業から機械工業への大転換が生じてもおかしくはなかった。

こうして15世紀半ば，マインツの野心的な金属加工職人だったヨハネス・グーテンベルクが活版印刷術を発明したのである。それは，人手不足の時代に起きていた様々な技術革新の一つであったが，この技術革新が知のあり方にもたらした変化は，数百年に及ぶ巨大なものとなっていく。 C 出版産業が，第一世代の大学に止めを刺すのである。大量の印刷された安価な書物が出回るようになった16世紀以降のヨーロッパでは，もはや何か月もかけて大学のある都市まで旅する必要性はなくなった。「ステイホーム」のままでも，必要な知識は印刷本を買い集め，それらを読み比べることで十分に得られるようになったのだ。

こうして移動の自由の時代が終わった先で浮上した17，18世紀の近代は，大学の時代ではなく，出版の時代であった。中世から近代までを通じ，知的創造の歴史は，一方では移動の自由に，他方では出版の自由に足場を置き，この二つの足場は対抗的に連鎖してきた。だから大学と出版の間には，連携関係と同時に対抗関係(オ)がある。

そして，長い周期で何度か繰り返されてきた感染症パンデミックは，何度も移動の自由を大幅に制限する動きを生じさせてきた。それは封鎖であり，隔離であり，監視であり，移動の禁止である。明らかに，この動きの延長線上に大学の自由はない。「新しい日常」が「大学の自由」と共存できるためには，単なる封鎖や監視とは異なる「移動の自由」への回路が，つまり越境や接触や対話の自由につながるもう一つの回路が見いだされなければならない。

実際，コロナ禍の渦中でも，私たちはいくつものそうした越境と接触，対話に向かうグローバルな動きを目撃してきた。最も大きな流れは，やはりオンライン

化の急激かつ全地球的規模での浸透である。しかし，変化はそれだけではない。ヨーロッパでは，封鎖が最も厳しかった時期に，家々のベランダ越しに，広場や街路を挟んで人々が合唱し，メッセージを送り合い，中間地帯をコミュニケーション空間に変えていった。 D 人種差別に反対(カ)して膨大な人々が，世界中でマスクをしながら街路を行進した。いかなる時代であれ，民主主義も都市も大学も，単に「ステイホーム」しているだけでは守りきれないのだ。私たちはなお越境し，接触し，対話し，主張し続けなければならない。そうした集合的行為(キ)こそが，都市を実現し，大学を支えるのである。

（吉見俊哉『大学は何処へ』岩波新書，2021年。ただし，出題のために，一部変更した。）

問１　空欄 A に入るものとして最も適切なものを，以下から一つ選べ。 12

① 「移動の制限」だけでなく，マスクの着用や換気の徹底，手洗いうがいの実施が決定的に大事であった

② 今回の COVID-19 を世界的なパンデミックにした病原体は，コウモリを宿主としていたウィルスだと言われている

③ 間接的に病原菌を保有した渡り鳥によって拡大したのである

④ 人々の移動を制限できるだけの強制力を持った国家やその指導者のリーダーシップの存在が不可欠であった

⑤ ローカルな疫病をグローバルなパンデミックに転化させる主犯はいつも人間の移動と接触の拡大だった

問２　下線部(ア)の説明として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 13

① グローバル化の拡大によって，16世紀に宗教戦争が必然的に発生した。

② 人々の移動の活発化と疫病の拡大は，一方の拡大と他方の拡大を不可避としている。

③ 大学における学問の自由の拡大は，感染予防との両立を不可欠にしている。

④ コロナ禍の中で大学の授業はオンライン化され，ポストコロナ時代に不可避となる。

⑤ 戦争や紛争の拡大と世界的な航空会社の経営危機は不可分である。

⑥ 生産工程の合理化と機械化は資本主義社会の発展にとって不可欠である。

問３　下線部(イ)四字熟語「二律背反」の意味として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 14

① 二つのことを同時に達成しようとすると，二つとも達成できないこと。

② 二つの命題が，矛盾し，同時に成立しないこと。

③ 二つの成果を，同時に，一つの行為から実現すること。

④ 二つの選択肢から，どちらか一つのみを選択すること。

⑤ 二回発生する事象は，何度も繰り返し発生する可能性を有していること。

問４　下線部(ウ)の説明として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 15

① 領邦国家成立により，ヨーロッパ中にあったネットワーク機能が低下したこと。

② ローマ教皇や神聖ローマ皇帝から，学問の自由についての勅許をえること。

③ グーテンベルクの活版印刷に代表される技術革新により，書籍が大量生産されたこと。

④ プロテスタントやカトリックなど宗派を超えて，旅人を保護しようとする国家権力成立のこと。

⑤ 都市から都市へと，どこにでも渡り歩くことのできる条件のこと。

⑥ 大学は教師と学生の協同組合であるので，両者に強い信頼関係のあること。

問５　空欄 B に入るものとして，最も適切なものを，以下から一つ選べ。 16

① つまり　② しかし　③ または
④ さて　⑤ あるいは

問６　空欄 C に入るものとして，最も適切なものを，以下から一つ選べ。 17

① または　② しかし　③ さらには
④ ところで　⑤ つまり　⑥ もっとも

問７　空欄 D に入るものとして，最も適切なものを，以下から一つ選べ。 18

① つまり　② しかし　③ ところで
④ または　⑤ さらには　⑥ もっとも

問８　下線部(エ)「労賃を上昇させる」メカニズムの説明として，最も適切なものを，以下から一つ選べ。 19

① 人口減による労働供給の減少によって，労働市場は需要超過になり，労賃（労働者の賃金）は上昇した。

② 人口減による労働供給の増加によって，労働市場は供給超過になり，労賃は上昇した。

③ 人口減による労働需要の減少によって，労働市場は需要超過になり，労賃は上昇した。

④ 人口減による労働需要の増加によって，労働市場は供給超過になり，労賃は上昇した。

問９　下線部(オ)の説明として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 20

① 数多くの書籍が出版されることで，大学のある都市まで人々は旅をしなくなるという関係のこと。

② 教師と学生の協同組合である大学で研究された成果が出版され，教師と学生の双方ともに成長していくという関係のこと。

③ 大学と出版の知的創造に関する歴史は，幾度となく襲来したパンデミックと対立し，それを克服するという関係のこと。

④ 学問の自由は，その時の政府など世俗的な権力と，しばしば対立，対抗する関係のこと。

⑤ ポストコロナ時代を特徴付ける「新しい日常」は，大学のオンライン授業と出版に新しい緊張関係を生み出す関係のこと。

問10　下線部(カ)の内容として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 21

① 外出が制限された中でも，人々はSNSを通して，活発なコミュニケーションを発展させた。

② コロナ禍の中でさえも，人々はオンライン化を急速に発達させて，コミュニケーションを維持した。

③ 外出が制限された中でさえも，世界中の大学で，オンライン授業を通して，単位認定し，学生を卒業させようとした。

④ コロナ禍の中でさえも，人々は中立的な地域で人種差別への抗議活動をおこない，政府に対して自らの意志を伝達した。

⑤ 外出が制限された中でさえも，人々は各自の家の窓ごしに，直接的なコミュニケーションを維持しようとした。

問11　下線部(キ)の内容として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 22

① 大学や都市は，このパンデミックを乗り越えるために，オンライン技術を発展させ，その中で積極的なコミュニケーションを発展させている。

② コロナ・パンデミックの中で，人々はこれまでの日常の大切さに気づき，より親密なコミュニケーションを望んでいる。

③ 大学や都市は，人々の頻繁な往来，対面でのコミュニケーションを活発化させることで，その活動を維持できる。

④ コロナ・パンデミックの中で，人々は，ワクチンや薬の開発のために，集合的行為を発展させなくてはならない。

⑤ コロナ・パンデミックの中で，大学や都市は，人種差別に反対する集合的行為をとおして，学問の自由を発展させる。

第3問　各問いの二重下線部のカタカナと同じ漢字を使うものを，以下から一つ選べ。

問1　大学は企業の中核となる人材をイクセイする。 23

① 物品代をセイキュウする。

② 高級車のセイノウを表示する。

③ 未明に選挙のタイセイが判明する。

④ 事業経営にセイコウする。

⑤ 蝶のヨウセイは芋虫である。

問2　浴衣を着てエンニチに行く。 24

① 健康のために，キンエンを始める。

② エンダンがまとまり結婚した。

③ 会社の同僚とエンマンな人間関係を築く。

④ 喪中につき，新年の挨拶をエンリョした。

⑤ 選挙運動のオウエンに駆けつけた。

問3　ゲシは昼間の時間が一番長くなる。 25

① 全国大会で優勝することはシジョウの栄光である。

② 社長が職場の人達にシジを出す。

③ 面接でシボウドウキについて話す。

④ 工場のシセツの中を案内される。

⑤ すらりとしたシタイを持つプロのダンサー。

問４　功労者としてコウグウを受ける。 26

① スリーアウトとなり，コウシュが交代する。

② 運転免許をコウシンする。

③ 彼はコウガンムチな人だ。

④ あらゆるリスクをコウリョする。

⑤ この国道では渋滞がコウジョウテキに発生している。

問５　彼のジョウキを逸した行動に驚く。 27

① パソコンをキドウさせる。

② 廃虚でキカイな体験をした。

③ ミサイルのキドウを修正する。

④ 山頂は酸素がキハクな環境である。

⑤ 若者たちがキセイをあげる。

問６　新進キエイの作曲家になりたい。 28

① その背番号は，エイキュウ欠番である。

② エイリ目的の事業を立ち上げる。

③ 日本刀はエイリな切れ味をもつ。

④ 金メダルのエイカンに輝く。

⑤ 甲子園で優勝し，母校のエイユウとなった。

問７　マンガを書いて，ゲンコウ料を得る。 29

① トウコウ論文が掲載不可とされた。

② 20年ぶりに母校のコウモンをくぐる。

③ ギコウをこらした美術品を購入する。

④ 依頼人に，書面でなく，コウトウで報告した。

⑤ コウゲキ目標を定める。

問８　マンセイ的な腰痛に苦しんでいる。 30

① カジノには年齢セイゲンがかけられている。

② 水溶液のセイシツを調べる。

③ 著名人でないシセイの人。

④ スマートフォンはセイミツ機械である。

⑤ 遭難者が冬山から無事にセイカンした。

問９　警察は証拠品をオウシュウした。 31

① 俳句の大会でユウシュウ賞を獲得した。

② 罪を犯し，シュウジンとなる。

③ シュウトク物を警察に届ける。

④ 散乱したおもちゃを箱にシュウノウした。

⑤ キリスト教はシュウキョウの一つだ。

問10　社会保障制度の根幹には相互フジョの考え方がある。 32

① 思慮を欠き血気にはやる勇気のことを，ヒップの勇という。

② 恩人のフホウに接し，気落ちする。

③ 大学は，最高ガクフと呼ばれる。

④ 筋トレで，筋肉に過重なフカをかけた。

⑤ 小学生は保護者にフヨウされている。